

保育者養成校における子育て支援の在りかた — 地域子育て支援センター「くれまちす」子育て支援講座参加者の特徴とニーズの検討 —

大 西 薫 高 松 み ゆ き

岐阜聖徳学園大学短期大学部 地域子育て支援センター「くれまちす」保育士

Assisting nursery school educators to care for children:
A study of the characteristics and needs of participants of the Regional Child
Care Center's "Childcare Support Courses in Clematis"

Kaoru ONISHI, Miyuki TAKAMATSU

キーワード：地域子育て支援センター 子育て支援講座 利用者の特徴とニーズ 保育者養成校

I. はじめに —研究の背景—

1. 地域子育て支援センター「くれまちす」の特色

岐阜市と岐阜聖徳学園大学・岐阜聖徳学園大学短期大学部が連携し、短期大学部（岐阜キャンパス）内に開所された未就園児を対象とした子育て支援センター「くれまちす」（以下、「くれまちす」とする）は、岐阜市が管轄する子育て支援センターの中で唯一、保育園や子ども園に併設されてない施設であり、大学の知的財産の活用とともに、保育者養成校として家庭や地域に貢献できる人材育成の場としても期待されている。

「くれまちす」の特色として、子育て中の親（保護者）と子どもが安心して楽しく過ごせる場を提供し、孤立しやすい親子がほかの親子と自然な形で交流できることを目指している。また、子育てに関する不安や悩みをもつ保護者に対し、「くれまちす」に常駐する保育士（開所日は、3名以上の保育士が業務に携わっている）は相談にのったり、日常的な何気ない会話を通して不安の軽減や悩みの解決の糸口を一緒に考えたりしている。日常的に多い関わりは、同じような悩みを過去に持っていた親に「つなぐ」役割であり、教え導くような関わりというよりも、子育て中の保護者がもつ子どもの共通の悩み（例えば、食事面、排泄面、イヤイヤ期への対応）に対して、共感的に関わることが多い。子育て支援に関する情報を集約し、子育て家庭に必要な情報を提供する場としても機能している。

「くれまちす」の開所日は週3～4日で令和元年の開所予定日は年間165日となっている。平成28（2016）年4月の開所以来、年間利用者（親子・学生の延べ）数は年々増加しており、開所年度の3,006名から、翌年の平成29（2017）年度は6,521名、平成30年（2018）年度には8,086名となっている。このような利用者数の増加から、地域の中で「くれまちす」が浸透し、子育て中の親子が安心して利用できる場として機能していることがうかがえる。

2. 子育て及び子育て支援に関する講習会の開設 - 子育て支援講座 -

「くれまちす」ではマンスリープログラムとして、保護者を対象とした講習会を開催している。この講習会開催の目的は、子育てについて学び合う機会とするとともに、講習会を通して子育てと向き合うゆとりと、親としての自信を高める学びの機会を提供することである。そのため、「くれまちす」における子育て支援講座では、講師として短期大学部の教員以外にも、看護学部、経済情報学部、教育学部、附属幼稚園の教員が担当し、参加する親にとって多様な学びの場となるように努めている。

本研究では、「くれまちす」子育て支援講座の参加者の特徴や、参加者が本講座から何を得たのかを明らかにすることを目的とする。また、講座に関する参加者の思いや要望を明確にすることによって、参加者、つまり地域の子育て世代が求めている「子育て支援」の内容を検討していきたい。

Ⅱ. 実践研究の方法

1. 子育て支援講座について - 講座に関する概要 -

「くれまちす」が主催となっていて行っている子育て支援講座は、年度初めに年間スケジュールとしてホームページ上に提示される。平成30（2018）年度の子育て支援講座の一覧を表1に示す。開講時間は10時から11時までの1時間である¹⁾。申し込み希望者は、氏名、電話番号、希望する講座、託児の希望の有無を記載した電子メールを申込期間内に送信する。各講座の定員は15名であり、定員を超える希望者があった場合には抽選を行う（しかし、講座内容や講師の許諾によって、定員を超える講座もあり、実際には抽選をしないで参加できる状況である）。

講座開講中は、「くれまちす」において希望者を対象に託児を行っている。定員は10名²⁾で、おおむね1歳以上3歳未満を対象としており、無料となっている。

表1 平成30（2018）年度 子育て支援講座一覧

回数	開催日	内容	講師
1	5月24日	幼稚園ってどんなところ？ 終焉までに身につけておきたいこと	川口 貴恵子 附属幼稚園主任
2	6月22日	子どもたちの、世界のとらえ方	石田 開 短期大学部准教授
3	7月19日	親子で学ぶ楽しい英語 - 映像や絵本を活用して -	寶壺 貴之 経済情報学部准教授
4	8月10日	お母さんの元気は家族の元気 - 身体測定、ストレッチ体操 -	古澤 洋子 看護学部准教授
5	8月25日	育児のリフレッシュ“笑いヨガ”で心と身体 のストレッチをしましょう！	尾関 唯未 看護学部助教
6	9月21日	遊びの中の学び～やる気スイッチは乳幼児 期の学びで決まる！～	西川 正晃 教育学部教授
7	10月15日	子どものからだところの発達	大見 サキエ 看護学部教授
8	11月21日	病気とホームケア	大西 薫 短期大学部専任講師
9	12月18日	子どもの運動遊び ～“やりたい”“楽しい”を大切に！～	内藤 譲 短期大学部助教
10	1月25日	子どもと楽しむ色あそび - 実践編 -	齋藤 正人 短期大学部専任講師
11	2月22日	離乳食の進め方とそのポイント	西脇 泰子 短期大学部准教授
12	3月14日	親子で楽しむ自然遊び	木戸 啓絵 短期大学部専任講師

※「くれまちす」ホームページより筆者抜粋³⁾

2. 子育て支援講座参加者への質問紙調査

(1) 調査協力者

平成30（2018）年度子育て支援講座に参加した計157名に質問紙調査への協力を依頼した。その内、回答のあった149名（回収率95.0%）を分析対象とする。

(2) 調査内容

①属性に関する内容

参加者の属性の項目として、以下の内容を尋ねた。すなわち、子どもとの関係（父、母、祖父母、

その他の5項目から選択)、年齢(10代、20代、30代、40代、50代、60歳以上の6項目から選択)、子どもの年齢(～歳～月で実数を記入)、居住地域(岐阜市北部、東部、南部、西部、羽島市、笠松町、岐南町、その他の8項目から選択)、講座参加の主な交通手段(徒歩、自転車、車、バスの4項目から選択)である。

②講座に関する内容

参加のきっかけ(ホームページ、友人、「くれまちす」利用時、その他の4項目から複数選択)や、今後の講座参加について(また来たい、内容によって来たい、もう来ないの3項目から選択)、講座内容の良かった点、改善点、要望(自由記述による回答)、過去の子育て支援講座への参加(初めて、2回目、3回目、それ以上の4項目から選択)、その際の託児(有無)を尋ねた。

③「くれまちす」への参加に関する内容

過去の「くれまちす」への参加(有無)を尋ねた。

(3) 手続きおよび回収方法

質問紙は、講座参加手続きの際に講座の資料と共に配布し、講座終了後に回収した。

(4) 倫理的配慮

回収した質問紙は次年度の講座のための参考にするとともに研究として報告すること、回答は任意であり、回答しないことによって何ら不利益を被ることがないこと、途中で中断してもよいこと、得られた情報によって個人が特定されることはないことを口頭で伝え協力を得た。

Ⅲ. 結果と考察

1. 子育て支援講座参加者の特徴

全12回の参加者の参加における参加人数を図1に示した。参加人数は7月と9月が多く、8月、10月、2月が少なかった。7月と9月はともに子どもの学びに関する内容であり、これらの内容について参加者の関心が高いことがうかがえた。2月に参加者数が少なかったのは、この時期が最も気温が低いため、乳幼児を連れて参加することが難しかったものと推察される。実際、通常の子育て広場の参加者数も2月は他の月に比べて100名以上少ない。同様に、8月に少なかった理由は、大学の学食が閉店していることも関連しているかもしれない。これについては、2月も同様の状況であり、2月の参加者数の少なさにも寄与しているものと考えられる。

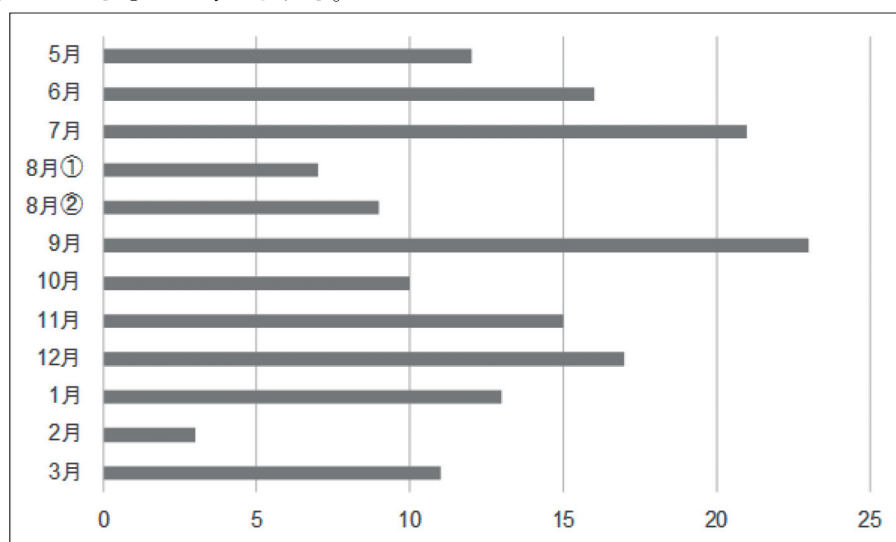


図1 各回の参加人数

回答者全149名中、147名が母親であり(98.7%)、父親の参加は2名であった(1.3%)。参加した母親の年齢区分を図2に示す。また、参加者の子どもの年齢区分は図3に示す。「くれまちす」が未就園児を対象とした施設であることから、0～2歳児が83.0%を占めている。

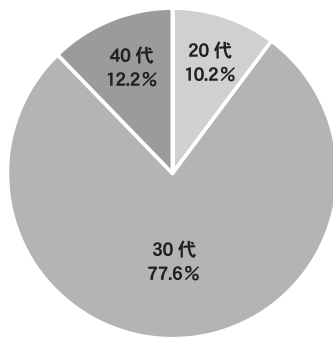


図2 子育て支援講座参加者（母親）の年齢区分

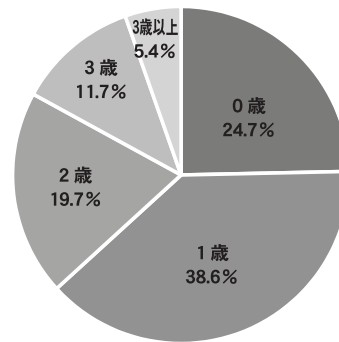


図3 参加者の子どもの年齢区分

次に、子育て支援講座に参加した人の地域別に示したものを図4に示す。地理的利便性を考えれば、岐阜南地区が最も多い（49.0％）ことは想定できるが、岐阜市内を合わせると全参加者の77.9％を占めている。その他の地域として、具体的には一宮市、各務原市、柳津町からの参加であった。参加者の交通手段は、車利用が最も多く93.0％、徒歩は4.0％、自転車は1.3％であった（不明2名：1.3％）。参加者の79.2％（118名）は「くれまちす」の利用経験があり、20.8％（31名）は利用経験が無いと回答している。

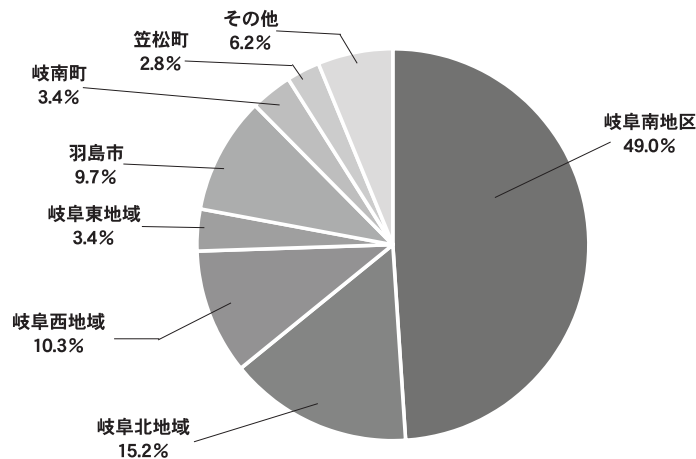


図4 参加者の地域区分

2. 子育て支援講座に関する内容

（1）参加のきっかけ

講座への参加のきっかけを複数選択で尋ねたところ、「くれまちす」のホームページを参考に行っていることが最も多く、78件であった（図5）。この結果は、子育て支援講座の申し込み自体が、ホームページ上で行われているためと考えられる。次に、「くれまちす」職員からの紹介が59件と続き、友人からの紹介は16件と、参加のきっかけとしては多いとはいえない。また、児童館に配布しているチラシ（6件）や、その他では、「ぎふし子育て応援アプリ」から情報を得たケース（1件）であった。

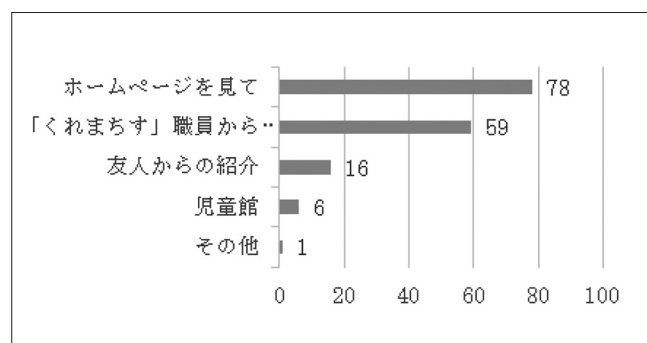


図5 参加のきっかけ（複数回答 n=160）

（２）講座に関して

今後の講座に関して参加の有無（「また来たい」「内容によって来たい」「もう来ない」）を尋ねたところ、78.5%（117名）が「また来たい」と回答している。「内容によって来たい」は21.5%（32名）であり、「もう来ない」を選択した人はいなかった。質問紙への回答をしなかった参加者の中に、そのような思いを持つ人がいる可能性もあるが、95.0%の質問紙回収率から考えると、その割合はかなり低いことが考えられ、子育て支援講座参加者からはおおむね好評であることが分かる。

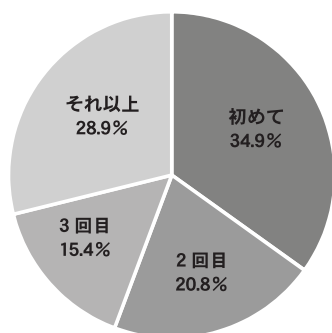


図6 子育て支援講座参加回数

講座参加回数について尋ねたところ、初めてが最も多く、次に4回以上の参加が多い。前述したように、参加者の多くがまた来たいと述べていることから、一度参加するとその後は継続して参加する傾向があることが結果として示された（図6）。

（３）託児に関して

講座参加中の託児利用者の割合は、利用有が43.6%（65名）、無しが56.4%（84名）という結果となった。託児利用者からは、自由記述内において「託児ができたので、ゆっくりと話を聞くことができた（5月）」や、「一人の時間、自分に集中できてよかった、子どもがいるとゆっくり聞いたり動いたりできないことが多いのでとても良かった（8月①）」など回答があり、1時間ではあるが、託児を利用することによって、親自身の時間を持てる機会となっていることがうかがえる。一方、託児利用者が全参加者半数に満たないことについては、0歳児をもつ参加者が25%程度あり、託児が1歳になってから利用できるようになるためであると考えられる。また、自由記述からは、「2歳の子どもと一緒に参加できてよかった（7月）」とあり、参加者の中には、子どもと一緒に参加したいと希望している人もいた。

3. 講座に関する自由記述

（１）良かった点

子育て支援講座は15名を定員としており、参加者同士の距離や講師との関係もより近く、アットホームな雰囲気の中で進行していく。アンケート結果からは、「なかなか聞けないことが多いのでとてもよかった（5月）」「病院の先生には聞きにくいことが聞けて良かった（11月）」「たくさん質問ができてよかった。分かりやすかった（2月）」など、普段はなかなか聞けないような内容を質問できる機会となっていることが分かる。また、「英語の学習方法や教材の選び方、学ばせ方がよく分かった（7月）」のように、受講することによって、理解が深まったという感想が書かれていた。さらに、自分の子育てに対する不安を解消する機会や、育児を振り返るきっかけになっていることが自由記述から明らかになった。具体的には、「新しい視点で育児を楽しめそうです。なかなか子どもの目線に立って育児ができていなかったのが、心の発達もこれから見ていきたいです（6月）」「とても勉強になりました。子育てで悩んでいることが多く、自分の子育てが正しいのか不安でしたが、先生のお話を聞いてまた頑張ろうと思いました（9月）」「子どものことを振り返るきっかけになりました。今後にも役立てていきたい（10月）」などの記述が見られた。

講座を受けて、自らの育児を振り返るだけでなく、育児において意識したいことや、これから取り入れたいことなどの記述も見られた。例えば、「運動の大切さについて分かり良かった。家でできる身体を使った遊びの例もあり参考になった。日常の運動遊びに取り入れたい（12月）」「家庭でもできそうなことを教えてもらってよかった（1月）」「実際に外に出て、いつもとは違う感覚を体験できたのはとても楽しかったです。子どもはもっと楽しいだろうと思ったので、晴れの日に限らず色々な天気の日に出かけてみたいと思いました（3月）」など、講座をきっかけとして、子どもとの関わり方を工夫しようとする様子が見られた。

他にも、「形だけでも笑うとすっきりした気がします。普段なかなか意識して笑うこともないので、

こういった時間があってよかったです（8月①）」「普段なかなかゆっくりストレッチすることもないので、貴重な時間だった（8月②）」など、自分のための時間を過ごせた実感を示したものもあった。

（2）改善点・要望点

改善点として挙げられた内容は、教室環境（寒かった、プロジェクターが見えにくかったなど）や駐車場に関すること（他の行事と重なり、駐車スペースがわずかしかなかった）が挙げられた。また、自宅で夫に説明したい・読み返したいため、紙ベースの資料が欲しいという要望もあった。

講座開始時間について、午前中ではなく午後からゆっくり受講したいという意見¹⁾や、託児の抽選から外れてしまった参加者からは、「子どもの世話をしながら受講したので、講義に集中できなかった。託児人数を増やし欲しい」などの記述もあった。結果と考察2(2)の今後の講座受講についてでも触れたが、アンケート回答者の全員が、子育て支援講座に「また来たい」「内容によっては来たい」と回答しているように、「また先生の講座を希望します」「こういう内容をまた聞きたいです」という要望もあった。

IV. 総合考察

地域子育て支援センターは、子育て家庭にとって身近な地域の拠点として、子育て・子育て・親支援の中核的機能が期待されるとともに、地域特性を考慮した柔軟な対応が展開されることが望ましいとされている⁴⁾。今回の研究では、養育者養成校で毎月行われている子育て支援講座に、どのような人が参加しているのか、その特徴とニーズを明らかにする目的で質問紙調査を行った。質問紙の回収率（95.0%）の高さは、参加者の子育て支援講座に対する期待や思いであるとともに、回収にあたり声をかけていたのは、いつも利用者たちを温かく迎え入れている「くれまちす」職員であったことも関係しているのかもしれない。岐阜南地区にある「くれまちす」に、岐阜市内、近隣地域からも講座に参加する実態が明らかにされた。その講座開催は、平日ということもあり、参加者のほとんどは母親（149名中147名）であった。父親も育児に協力することを支援するのであれば、今後は開催日程の工夫や、内容も父親が参加しやすいものを加えていくことも必要であろう。

参加者の子どもは0～2歳児までが83.0%を占めていることから、講座内容として子どもの年齢と関連するトピックス（離乳食、イヤイヤ期、トイレトレーニング、遊び、園選びなど）の話題提供をより積極的に行っていく必要性が考えられる。また、講座に参加することで「ゆっくりした時間を過ごせた」という母親の言葉からは、普段育児に追われて自分の時間が持てないと感じていると考えられ、だからこそ、「一人の時間」や「ほっとする時間」の使いかたとして、この子育て支援講座を機能させることが重要であると思われる。講座中に託児を実施することは、そのような母親に寄与するものと考えられ、託児を充実する必要性がある。

幼稚園において、子育て支援の一環として実施されている母親講座に参加する母親の育児に対する意識の変化を明らかにした笹瀬は、継続的に子育て支援を実施するだけでは意味がなく、そこに参加した親子などが育児不安を軽減することや講座を受講することで育児に対して前向きに捉え前進できるように関わりが必要となる⁵⁾と述べている。本調査からも、講座を聞いて不安が解消された、という記述も見られたことから、子育て支援講座の目的は、概ねそのような内容も含まれて当然である。しかし、そのような側面ばかりを強調するのではなく、むしろ、素朴に自らの育児を振り返る機会であったり、自分の身体をほぐしてリラックスしたり、親が楽しめればきっと子どもも楽しい、と実感できることは、幼い子どもの育児をしている親にとって不安を解消するのと同じくらい必要であろう。だからこそ、子育て支援講座に「もう来ない」と回答した人はおらず、調査協力者全員が「また来たい」「内容によって来たい」と回答したのだと考える。

「くれまちす」子育て支援講座を開設できるのも、学部を超えて子育て支援講座に賛同・協力してくれる教職員の支持があるからこそ可能であることは言うまでもない。「また来たい」を超えて、先生の講座を又聞きたい、という直接的な要望からは、1回、1時間で完結する講座ではなく、継続して学習したいという気持ちがあることがうかがえた。このような親の学びの姿勢を支援すべく、次年度に向けて、多くの参加者にとって有意義な時間を提供できるよう講座運営をしていきたい。

注・文献

- 1) 令和元年度からは、子育て支援講座の開講時間が13時から14時と変更されている。
- 2) 令和元年度からは、託児の定員が15名に増加している。注1で示したように、開講時間が変更になったことで、学生の子育てボランティアが可能になった。
- 3) 地域子育て支援センター・くれまちす主催 子育て支援講座,
http://www.shotoku.ac.jp/regional_contribution/parenting_support/extension-lecture/index.php, 確認 2019年3月1日.
- 4) 大西 薫・高松みゆき (2018): 地域子育て支援センター「くれまちす」における身体計測の実践, 岐阜聖徳学園大学教育実践科学センター紀要, 17, 165 - 170.
- 5) 笹瀬ひとみ (2016): 子育て支援を受けた母親の子育て意識の変化 - 子育て支援講座後のアンケート調査から -, 愛知江南短期大学紀要, 45, 49 - 61.

